

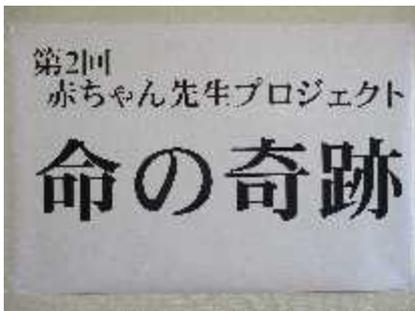


2学期を振り返って

2学期は行事等を通してクラスの団結を高め、友だちとの絆を深める事ができたと思います。その経験から様々なことを学べる機会でもありました。本日終業式を迎え、いよいよ明日から冬休みです。三者懇談会で話し合った内容等を生かし、この冬休みに家の手伝い、家庭学習等を行い3学期に備え、自分の持てる力を存分に発揮してもらいたいと思います。そのためには、行く年をしっかりと振り返り、来る年に向かって新たな決意で臨んでください。また、冬休みは年末年始で忙しい日々だと思いますが、家族や親戚の人と過ごしながらいろいろな話をし、有意義な時間を過ごしてください。3学期の始業式には、みんなの笑顔と元気な顔が見られることを楽しみにしています。

赤ちゃん先生プロジェクト 「命の奇跡」

「まあるいいのちみんなおなじ いきているからひとりにひとつずつ たいせつないのち」



11月28日(木)6校時、3年生を対象とした「第2回赤ちゃん先生」が本校体育館で行われました。6月25日(火)に第1回を開催し、約6ヶ月後の赤ちゃん先生はみんな健やかに成長していました。

「赤ちゃん先生」は、いのちの偉大さに気付き、自己肯定感を高め、いじめや自殺予防へ。生まれてきたことの奇跡・自分自身の命の偉大さを学ぶことを目的とします。実際に赤ちゃんに触れ合い、赤ちゃんの母親から生まれたときの話などを聞くことで親の思いや自分の価値・周りの仲間の命の価値に気づくことができます。

赤ちゃん先生とママ24組、NPO法人ママの働き方応援隊トレーナー5名、ちびっ子トレーナー2名が来校され、生徒たちと赤ちゃん先生が触れあい、ママから妊娠・出産のお話、手遊び♪Happy Birthday♪、各グループの感想という内容でした。日頃の授業では学べない命の尊さや価値に気付かされる機会でした。



伊丹市いじめ防止フォーラム

12月1日(日)午後2時から伊丹市立西中学校体育館にて、「伊丹市いじめ防止フォーラム」が開催されました。今回のフォーラムは、ファシリテーターとして、伊丹市いじめ防止等対策審議会会長・関西外国語大学教授 新井 肇 氏をお招きし、「なぜ、子どもは、いじめられても、いじめても、そのことを親に言わないのか」をテーマに、いじめについて、5~6人のグループに分かれてロールプレイを行い、幅広く意見を出し合いながらみんなで考えました。

かけがえのない命を大切に、いじめのない社会を私たちみんなで作っていきましょう。

（「いじめのない 伊丹のまち こどもたちの 学校を目指して」リーフレットより引用）

定義：「いじめ」とは児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該児童等の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法）

「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた生徒の立場に立つことが必要です。

「いじめは、犯罪です。ぜったいダメ！」

軽い気持ちでやったことでも、法律では罪に問われることがあります。

- 冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なこと言う。脅迫罪、名誉毀損罪、侮辱罪
- 軽くぶつかったり、遊ぶふりをしてたたいたり、けったりする。暴行罪
- ひどくぶつかったり、たたいたり、けったりする。暴行罪、傷害罪
- 金品をたかる。恐喝罪
- 金品を隠す、盗む、壊す、捨てる。窃盗罪、器物損壊罪
- いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをさせる。強要罪
- パソコンや携帯電話で、誹謗中傷を書き込む、嫌なことをする。名誉毀損罪、侮辱罪

いじめの特徴

いじめという状況は、『いじめる人』『いじめられる人』『傍観者』という3つの人間関係から成り立っています。形態は「汚い」などの『言葉でのいじめ』、蹴ったり殴ったり、盗みを強要するなどの『暴力的ないじめ』、そして置き去りにしたり、無視したりするなどの『個人の存在を無視するようないじめ』など、様々です。

また、最近のいじめの特徴として問題視されているのが『いじめのゲーム化』です。このいじめは、いじめる子どもに加害意識がほとんどなく、ゲーム感覚で人をいじめてしまうため、歯止めが利かなくなってしまう。不思議なことに、いじめられた子どもも、「自分がいじめられている…」という被害意識を強く持っていないことも特徴です。この背景には、「いじめられてもいいから、その集団に入れてもらいたい…」 「いじめられているという事実を認めたくない…」という、子どもの思いが強い影響を与えていると考えられています。そしていじめる子、いじめられる子という役割がコロコロ変わり、教師や親がいじめを発見しにくいということも、いじめの特徴です。

歳末助け合い共同募金

12月14日（土）に阪急伊丹駅・阪急新伊丹駅、阪急稲野駅、JR伊丹駅、アリオ～イオンモール、ニトリ～郵便局、稲野公園（つかしん側）で生徒会本部役員・部活動生約250名が午前・午後に分かれ各場所で歳末助け合い共同募金活動を行いました。

少子高齢化社会において、地域間相互の助け合い活動の必要性が、今後一層重要になり、本校でも福祉教育の一環として、相互扶助の考えを育て、奉仕活動のひとつとして生徒のみならず、教職員を含めた学校全体で募金活動に取り組む事を目的として行っています。

「歳末たすけあい運動」とは

その歴史は長く、明治後期頃から自発的な互助的精神を持った主に救貧を目的とする民間活動として広がり、昭和初期頃から戦後にかけては、全国の各地域で民生委員（戦前は方面委員）などが中心となり、地域内での義損金品の配布や金品の持ち寄り運動などが行われています。現在では、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるようさまざまな福祉活動を重点的に展開する取り組みとして、民生委員・児童委員、共同募金会（共同募金委員会）、社会福祉協議会が中心となって地域住民やボランティア・NPO団体、社会福祉法人など様々な関係機関の参加のもと展開されています。なお、本運動で実施される募金活動は、共金の一環として行われています。